

令和6年度 第1回小牧市文化財保護審議会会議録

日 時：令和6年10月25日（金）午前10時

場 所：小牧市役所 東庁舎4階 本会議用控室

出席者：〔委 員〕池田委員、小野委員、藤堂委員、中嶋委員、越川委員、村松委員、
富嶋委員

〔事務局〕中川教育長、伊藤教育部長、矢本教育部次長、武市文化財課長、
浅野専門員、鈴木主事補、石川学芸員
株式会社トータルメディア開発研究所 吉原氏

傍聴者：なし

【事務局（武市）】 それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第1回小牧市文化財保護審議会を開催いたします。

皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中、御参加をいただきましてありがとうございます。

会を始める前に、御報告いたします。

本日、西川委員、増田委員より欠席の御連絡をいただいております。

また、議題となります（仮称）歴史民俗資料展示施設の基本設計・実施設計の作成業務を受注しました株式会社トータルメディア開発研究所より吉原様に同席いただいておりますので、よろしくお願いします。

また、令和6年度第1回ということで、事務局職員につきましては異動はございませんが、2月より会計年度任用職員といたしまして石川大輝学芸員が新しくメンバーとなりましたので、御紹介をさせていただきます。

【学芸員（石川）】 よろしくお願ひいたします。

【事務局（武市）】 この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして会議を公開としておりますが、本日の傍聴者はございません。

議事は音声録音し、議事録は発言内容、お名前とも小牧市のホームページにて公開いたしますので、御承知おきください。

次に、会議資料の確認をさせていただきます。あらかじめお送りしております次第、資料の1－1、A3判横向きのホチキス留めのもの、13ページございます。それから、

本日、差し替えの資料といたしまして、資料１－２、Ａ３の１枚のものがございます。それから、昨年度刊行いたしました資料等、机の上に置かせていただいておりますので、御確認をお願いいたします。

なお、事前にお送りいたしました資料２．令和５年度文化財保護事業の実施状況報告及び資料の３．令和６年度文化財保護事業計画につきましては、時間の都合上、事務局からの説明は割愛させていただきます。後ほど御意見、御質問がございましたらお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

次第の１としまして、教育長の中川より御挨拶を申し上げます。

【中川教育長】 おはようございます。

委員の皆様方におかれましては、本当にお忙しい中、小牧市文化財保護審議会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から本市の文化財保護行政に御支援を賜りまして、重ねてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、今月の９日から１１日にかけて、今年創建から１,３００年に当たります多賀城跡があります宮城県の大賀郡大賀町で開かれました全国史跡整備市町村協議会の大会に参加をさせていただきました。史跡等の視察におきましては、南門の立体復元をしている多賀城跡のほかにも、縄文時代の貝塚だとか、名勝に指定されている庭園や天然記念物の魚竜の化石などを拝見させていただいたところであります。それぞれの視察先では、担当者の方々から熱心な御説明をいただきまして、文化財の保存、活用に対する思いを感じるとともに、改めて文化財の幅の広さを知ることができたところであります。

さて、本日の議題につきましては、先ほど課長からもお話がありましたが、（仮称）歴史民俗資料展示施設の展示構成についてであります。昨年度に本審議会の審議を経て作成をいたしました（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画を基に、現在、具体的な展示構成、それから展示内容の検討を進めておるところでありまして、小牧の歴史を分かりやすく、魅力的に伝える施設とするため、展示の内容や方法につきまして、いろいろな角度から御意見をいただければ幸いと存じます。

限られた時間ではございますが、慎重に審議をしていただきまして、また委員の皆様方から忌憚のない御意見をいただければ幸いです。何とぞ、この後限られた時間ではありますが、よろしくお願いいたします。

【事務局（武市）】　続きまして、次第2といたしまして、小野会長より御挨拶をいただきます。

【小野会長】　皆様、おはようございます。

今、お話がありましたように、今日の中心の議題が（仮称）歴史民俗資料展示施設の展示構成についてということでございます。今後は実施設計などに入っていきますので、今回意見を入れる最後の場となりますので、活発に意見をぜひ出していただきたく、今後につながる議論になればよいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【事務局（武市）】　ありがとうございました。

それでは、議事に移りますが、教育長の中川におきましては、ほかに公務がございますので、これにて退席とさせていただきます。

【中川教育長】　お世話になりますが、よろしくお願いいたします。

【事務局（武市）】　それでは、ここからの進行は小野会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

【小野会長】　それでは、次第の3．議題に入ります。

議題、（仮称）歴史民俗資料展示施設の展示構成について、事務局の説明を求めます。

【事務局（鈴木）】

それでは、議題、（仮称）歴史民俗資料展示施設の展示構成について御説明いたします。

説明が長くなりますので、着座にて失礼いたします。

まず、お配りしました資料につきまして、1点訂正がありますので、御確認をお願いいたします。

資料1－1の8ページ目、展開図7となっている図面名称のほうなんですけれども、こちらのページ左側の平面図中に、登り窯の図、原寸グラフィック、G r と書いてグラフィック、出力シート貼とありますけれども、これの「登り窯」を「あな窯」に訂正をお願いいたします。

また、同じページの右側、A立面図の中にも同様の文言がございますので、同じように修正をお願いいたします。

ありがとうございます。

では、説明のほうに入ります。

まず、資料1－1をお願いいたします。

資料1－1は、展示平面図及び展示展開図となります。1ページが施設全体の平面図、2ページから13ページが展示の展開図になります。

次に、資料1－2をお願いいたします。

資料1－2は、展示構成表（案）となります。昨年度作成をいたしました基本計画においてお示しをした展示構成をベースに、各コーナーにおける展示の手法や内容について検討し、具体的にお示ししたものになります。このうち、薄い水色で着色している箇所が展示ケースによる実物の展示を行うもの。また、薄い赤色で着色している箇所が、体験コーナーとして利用者に体験をしてもらうような展示を行うものになっております。着色がない箇所は、解説映像や解説パネルによる展示に係るものになります。

では、資料1－1、横向きのものでですね、1ページをお願いします。

こちらが施設全体の平面図となります。基本計画でもお示しをした古墳、大山廃寺跡と篠岡古窯跡群、近世の宿場町という3つの大きなテーマと、それらの時代の間を補う形で、旧石器、縄文、弥生時代の展示から成る先史時代のパートと中世のパートを設け、大きく5つの時代のコーナーから成る展示となっております。各コーナーについては、平面図、赤色の三角形でお示しする各コーナーの始まりを示すサインと、そのすぐ横にその時代における市域内の様相や主な遺跡を解説するパネルを設ける形は共通をしております。

また、遺物の実物展示については、基本的に造作によるステージの上にケースを設けることで、映像什器等の格納場所を確保しつつ、幅広い利用者にとってなじみやすい、スタイリッシュな形を目指しております。

なお、市指定文化財資料など一部の重要な資料については、より厳重な従来型の独立した展示ケースなどによる展示をすることも検討しております。

では、各コーナーについて、資料1－1の2ページ以降の展開図の順に沿って御説明をいたします。

資料1－2は、資料1－1を大要するような形に基本的になっておりますので、御参考に見ていただけますと幸いです。

では、資料1－1の2ページをお願いします。

まず、こちらが施設の受付部分の立面図となります。施設の中心から見て右手側にカウンターの受付・インフォメーションが、左手側に壁で仕切られたスタッフルームとなっております。

続く3ページには、受付内部の断面図がございます。

では、4ページをお願いいたします。

こちらが資料1－2中の先史時代パートに当たる部分となりまして、受付カウンターのすぐ向かい側に来る形になります。旧石器時代、縄文時代、弥生時代の遺物について、小牧市歴史館で展示をしていた資料を中心に展示をします。石器を見せるケース、土器を見せるケースと分けて、それぞれの時代による違いを見せたいと考えております。また、市指定有形文化財である銅鐸については、特筆すべき資料として単独で展示をします。

また、体験コーナーでは、粘土に押し型文や貝殻条痕など縄文土器の文様をつける体験をするコーナーとなっております。

5ページをお願いします。

こちらが資料1－2中の古墳時代のパートとなります。こちらでは、三ツ山古墳2号墳の第1主体部の発掘調査時の出土状況を、実測図を基に床面グラフィックで実大の再現をします。あわせて、六頭式神像鏡について、実際の出土位置に合致させる形で独立ケースを配置して実物の展示をします。

スタッフルームの壁面に設ける映像展示では、この床面の三ツ山古墳群やグラフィックで表現する発掘調査時の状況について、分かりやすく解説をします。

また、平面図で、左側の壁側に沿って三ツ山古墳群出土の副葬品群をはじめ甲屋敷古墳出土の三角縁神獣鏡など、古墳時代の遺物を展示します。

体験コーナーでは、仮に銅鏡を鏡として使用したとき、どれくらい写るものかというところを利用者に体験してもらえよう展示を考えております。

6ページをお願いいたします。

こちらが資料1－2中、律令国家の時代のパートのうち、大山廃寺跡のパートになります。こちらでは、コーナー中央で塔跡の実大再現をします。塔心礎については原寸で立体模造、周囲の礎石についてはその一部をイラストの床面グラフィックで表現します。原寸塔心礎の周り、平面図でいうと上側には、床から若干立ち上がる形で、塔跡や塔心礎を解説するパネルを設けます。

6ページ左の平面図でいう左側の壁、立面図は6ページ右上のA立面図に当たる部分では、大山廃寺の規模や伝承を含めて、大山廃寺跡を解説する導入映像展示と、大山廃寺出土の生活用具遺物を展示して、その繁栄であるとか存続期間の長さを解説パ

ネルと併せてお示しをします。

平面図の下側の壁、立面図は6ページ右下のB立面図に当たる部分では、大山廃寺出土瓦の実物展示を中心に、併せて大山廃寺の創建年代の推定であるとか、瓦の作り方やその痕跡などの解説をします。

平面図でいう右側の柱の前、立面図では7ページに移りまして、7ページ左側のC立面図に当たる部分では、中心から右手側にかけてのステージでは、体験コーナーとして瓦片に触る体験、瓦の重さを感じる体験、また粘土板へのヘラ書き体験を設けております。

C立面図の左手側では、資料1－2中ではトピックコーナーに含まれておりますけれども、国指定重要文化財である正眼寺の銅像誕生釈迦仏立像のレプリカを独立ケースで展示するとともに、解説パネルで誕生仏、ないしほかの指定文化財の仏像などを紹介するトピックコーナーとすることを考えております。

8ページをお願いいたします。

こちらが資料1－2、律令国家の時代中の篠岡古窯跡群のパートになります。こちらでは、平面図でいう下側の壁で篠岡窯を含む尾北窯の成立について紹介する導入映像展示をしつつ、その横であな窯の断面構造の一部を模式図のイラストで実大再現をします。あな窯の実大断面構造の模式図中に生じる余白を使用しまして、各部の解説を入れるとともに、篠岡古窯やあな窯に関するめくりクイズを設けます。

8ページ左側の平面図で右側の壁、立面図は9ページの左上にありますD立面図、こちらでは壁沿いに大きな展示ケースを設けて、類似した器種ごとに展示をして、須恵器、灰釉陶器、山茶わんといった時代による生産品の変遷が分かるような展示を想定しております。

また、コーナー中央では、9ページ右側のE立面図に当たるものになりますが、こちらでは壁沿いのケースの展示に併せて、展示を眺めながら遺物に触れ、質感や生産品の変化を肌で感じてもらう狙いの下、陶器片の質感や触感を体感できるコーナーを設けております。

8ページ左側の平面図でいう、中央の柱に近い側の展示ケース、立面図では9ページ真ん中下側のG立面図の部分では、円面硯や記銘資料などの実物展示と併せて、解説パネルにより篠岡古窯の製品が中央や東国などの遠隔地でも使用されていたことをお示しします。

10ページをお願いします。

10ページは、資料1－2中の中世集落のパートとなります。こちらのコーナーでは、南外山遺跡や辻ノ内遺跡など市内の中世集落遺跡の遺物の実物展示と併せまして、遺

物から分かる中世の暮らしについて解説をします。

11ページをお願いします。

こちらが資料1－2中の近世のパート、小牧宿のパートとなります。こちらのコーナーでは、コーナーサインの横、赤色三角形の横において、織田信長が整備した小牧山城下町からつながる小牧宿の成り立ちや概要について解説する導入映像展示を設けます。

また、外周壁面では、書き割りイラストによる宿場町の町並みをイラストで実大イラストで再現しつつ、床面はイラストで上街道の道幅を再現し、小牧宿の雰囲気の再現を目指します。

また、小牧宿の特徴が今も残る場所を紹介する解説パネルを設けて、今の中心市街地が小牧宿からのつながりの上にあることを示します。

12ページをお願いします。

こちらが資料1－2中でいうトピックコーナー及び検索コーナーの部分になります。外周壁側及び入り口側の部分、L字の部分になりますが、こちらをトピックコーナーとしまして、解説パネル及び映像でのトピックス展示を考えております。パネルは架け替え可能な形を想定しまして、用水と新田開発、尾張徳川家との関係、市内の天然記念物など複数のパネルを用意し、展示替えをしながら小牧市の歴史や文化財を紹介します。映像では、小学校の郷土学習で取り扱う入鹿六人衆と入鹿用水について、また秋葉祭りや棒の手など、市内の祭りや伝統行事の映像による紹介を考えております。

施設中央側の柱周りの検索コーナーのほうでは、本施設の展示内容や市内の文化財に関する情報を検索できるようにするほか、資料1－2中では示しておりませんが、小・中学生を対象に実施しているこまき検定の過去問題を利用して、利用者がクイズに挑戦できるプログラムを組み込むことなどを想定しております。

最後に、13ページをお願いします。

こちらが施設の外周を活用した展示についてです。施設入り口が来る正面側の面では、市の地図とともに市の地理的な立地や特徴、市の歴史や文化財を簡単に紹介します。

そのほかの施設外周3面分では、すごろく風のデザインの年表としまして、子どもでも楽しみながら日本及び小牧市の主な歴史を知ることができる展示を目指しました。

以上で事務局の説明を終わります。

【小野会長】 事務局からの説明は終わりました。

これより質疑に入ります。

発言はありませんか。

発言がありましたらお願いをいたします。

【池田委員】 11ページのイラストの、近世のところのイラストの絵なんですけど、入り口が開くのはいいんだけど、内側って開いているんですか、左側の。

【藤堂委員】 広い旅館は、旅籠はこういう感じだったかもしれませんね。

【池田委員】 横から入れるということ。

【藤堂委員】 道路側から入る、こういう感じは東海道とかの旅籠ではあったかもしれませんがけれどもと思いますけど。大きい旅籠。でも、小牧はこういう旅籠なかったと思いますよ、小牧はね。

【池田委員】 だから、小牧の現実性のところではちょっときついかないと思って。いやみんな全国こういうふうだと思っちゃって、子どもが思っちゃうと。

【トータルメディア（吉原）】 参考にさせていただいたのが、川崎宿の再現のところの模型が結構きれいで、広くて、それは参考にさせていただいているんですが、御意見をいただいて、今後どのような形にさせていただくかは検討をと思います。

【藤堂委員】 より大きい宿場はね。旅籠はこういう感じだった、小牧は違う。

【池田委員】 これは奥行きのあるものなんですか、それともただフラットなものなんですか。今、絵があってもちょっとよく分からない。

【藤堂委員】 こちらはね、こちらは道路だと。

【池田委員】 この絵がある程度奥行きがあるんですか。

【藤堂委員】 この展示は奥行きがないですね。

【事務局（武市）】 はい。

【藤堂委員】 これは壁に。

【事務局（武市）】 そうですね、40センチぐらいの奥行きしかないものですから、中に何か展示というのはこれだけだと。

【池田委員】 そうですか、この人物たちがいるような奥行き空間を持っているのか、ただのパネル。

【事務局（武市）】 持っていないです。

【トータルメディア吉原】 板で構成した形になります。

【池田委員】 ちょっとはある。

【事務局（武市）】 ちょっとはありますけど、何か展示を中にしたりというような空間はありません。

【池田委員】 それじゃあ、この人たちはみんな板のお人形さんなんですね。というのは、上にあるのれんがずっとつながっているでしょう。旅籠というのは、岸田さんちみたいに上げないで、いつもこんな形なの。そこはちょっと。岸田さんちの家は全部上がるじゃないですか。あれ近世ですよ、あそこ。ここは今、柱の上へのれんが、これは青いものはのれんじゃないですか、これ何なんだろう、分からないですけど。

【トータルメディア吉原】 この屋根の下にかかっている、この青いところのはのれん。先ほど申し上げた川崎宿を参考にしていますので、のれんはあるんですけども、ただ、ちょっとまだ小牧のいうところではないものですから。

【小野会長】 それは何。模型のほうには表現されていたんですかね。

【事務局（武市）】 されています。

【トータルメディア吉原】 川崎宿のほうにはありますね。

【中嶋委員】 これって小牧で残っている江戸の建物ってないんですよ。復元しようがないわね。

【池田委員】 岸田さんのところはあった。

【中嶋委員】 岸田さんのところ、改造されていますもんね、あの出格子や何か。

【池田委員】 でも格子は格子ですよ。何が言いたいかって、扉がこういうふうに閉まっていて、内側に開けて、そうするとこののれんって引っかかるじゃない、この柱のところに引っかかる、違いますか。こういうふうのにれんがかかることは考えられないというように思うんですけど、川崎はこれ上げないんで、どうやって上げているのかなと思って。

【中嶋委員】 横にスライドする形もあるんじゃないんですかね。

【池田委員】 でも、江戸時代はないですよ。

【トータルメディア吉原】 もっと手前にあって、そののれんの奥で閉まる形になっています。なので、軒下に小さめの高さの、低めのものがある。この後ろで戸が閉まる形になっています。なので、川崎宿が完全に正しいということはないですが、今参考にするものが現状川崎宿のものが割と細かく再現されていたので、そうさせてもらっていますので、どうするかはまた御指示いただいて。

【池田委員】 雨風にさらされるということですよ。外ってことですもんね。

【藤堂委員】 一応軒が出ていると思う。

【池田委員】 軒はあるけど一応外は外です。

【藤堂委員】 でもね、これ土間があるんじゃないかな、前に、ここに。これ、外のこの人ね、道に座っているみたいに見えますけどそうじゃなくて、ここは土間だと思いますけどね。

【池田委員】 土間があるということね。じゃないと変だよ。ということは、少し奥行きがあるということですよ。

【藤堂委員】 まあこれは川崎宿の例を取ってくださったということだから、川崎はこういう感じだったと。ただ、小牧の歴史館では、中嶋さんがやってくくださったように商家というか、旅籠ではなかったですよ。

【池田委員】 旅籠はない。

【藤堂委員】 旅籠の展示じゃなくて、歴史館。

【中嶋委員】 歴史館はそうですね。

【藤堂委員】 商家の展示があつてね、その残り物はいっぱい収蔵庫にまだ残っている。だから、商家の展示はできると思うんですけど、旅籠はちょっと難しいかもしれませんね。

【中嶋委員】 でも、どっちみち40センチの空間の中で処理するわけですよ。ですから、それ使えないですよ。

【池田委員】 旅籠は使えないよ。

【藤堂委員】 それ残念ですね。

【池田委員】 だからせつかく絵を描くなら、なるべく正しい絵を描いていただきたいだけで。

【中嶋委員】 こういう形だったかどうかと。

【藤堂委員】 これはちょっとおかしいと思うね。この川崎をね、これを展示するのはおかしいと思いますから、何かやっぱり工夫しないといけないと思いますけど、小牧宿の旅籠はほとんど小さいんですよ。部屋もそんなにたくさんあるわけじゃない

し。

【池田委員】 小牧小学校のそばにあるところ。昔あってもうなくなったけど、小牧小学校の東側のほうに。

【藤堂委員】 和田さんのところはどうなんですか。

【中嶋委員】 どうなんですかねえ。岸田さんのところで既にもうみんな引き戸になっていますからね。全部改造されていますよね。だから、それより古いものって。

【藤堂委員】 岸田さんのところも郷宿といってね、一応旅館みたいな形だった。

【池田委員】 なるほどね。宿はあったんですね。

【藤堂委員】 だから、ああいう形でね。だから、この川崎しかないような形ではないですね。

【池田委員】 だから、ちょっと小牧もこういう形はないなとちょっと思っただけで、多分小牧だったら一番開くところ、何て言うのかな、この場所。ここが、おたなのところが一番幅があって、あそこは岸田さんだから格子になっていますもんね。だから、そういう形かなと思って。ちょっと中が見せたいとは思いますが、こういうふう。でも、そうやっちゃうと本物じゃなくなるのがちょっと怖いなと思ったりもして。

【中嶋委員】 岸田さんのところも土間があるから、こうなるんじゃないですか。

【池田委員】 あそこは土間がありますね。でも、外側に格子がないですかね。格子がありますよね。格子の中に土間があって、土間の奥にこういうものがありますよね。

【中嶋委員】 そうそう、これがあります。

【池田委員】 でも、難しいですね、それ。40センチしかないんだから。そういうふうに言われれば、確かに一旦中に入った中で、この土間のところを通って、ここから上がる。それなら私も分かります、すごい分かるんだけど、今の時代とすごく違うん

だということをやっぱり小・中学生が認識して、建物がね、玄関が、おたなで玄関なんだけど、お店の人のための玄関であって、お客さんのための玄関であって、うちの人たちの玄関ではないとかね、そういう感覚ってないと思うので、ちょっとその時代の様子が分かる感じに、いかに違うか。

それから、何かどうせなら、ここに何とか、あそこに建っていませんか、何だったっけ、屋根神様。

【小野会長】 屋根神様はあるといいかもしれないね。小牧らしいので。だけど、今この絵を見ると、多分人の動きを多分見せたいような気もして、外の格子とかもう取っちゃって、屋根神様ってもうちょっと屋根の上を見せなきゃいけないようになってきて、何かどこに焦点を置くかが多分変わってきますよね。宿場の人の営みのほうなのか、建物のもう少し外観を含むものなのかというのが変わりますよね。難しいですよ。

【池田委員】 ここの前に格子があって、穴を開けて、そこからのぞけるようなね。

【小野会長】 楽しいですね。

【池田委員】 子供たちは楽しいかもしれない。穴をのぞいてみると、こうやってやっているんだよって。これだと、もう本当じゃない。昔、絵画で出産場面が道路の中で、目にしたところでやっているというふうのことを言われたことがあるんですよ。つまり、格子を全部抜いちゃったもので、表で出産しているということになっちゃったということで、それですごくやっぱりこの時代はそんなことをやっていたのとかということになってしまったということで、それ怖いんで、ちょっと。何かここに格子があるみたいなのところの操作をかけてもらおうと、多分もう少し分かりやすいかなと思います。ごめんなさい。でも、せっかく造るなら、一回だから。

【藤堂委員】 そうですね。

小牧宿は、宿場という感じが主じゃなくて、ほとんどこの辺の市場というか、商店街のようなイメージのほうが強いと思うんですよ。旅籠は小牧の宿で泊まるという人がそう多くあったわけではないと思うんだ。名古屋が近いしね。だから、旅籠を強調するよりも、小牧市近辺の流通の中心地点で、この辺の周りの市町村、村から持ち寄って、売る場所であったという、そういうイメージのほうが本当は実態に近いと思うんですけど。

【小野会長】 人々が物を売ったりとかという参考にできるような絵があつたりするんですか。

【藤堂委員】 そうですね。

【小野会長】 そういうのがないと、多分造るといってもなかなかイメージができませんとか。

【藤堂委員】 どうですか、浅野さん。

【事務局（浅野）】 小牧宿のイメージって先ほどおっしゃられたように、米屋だったり綿屋であつたり、いろんな商売の店というのがあるんですけども、再現するに当たって、小牧宿、説明がないものですから、平面図上で何屋、何屋というところは、宿の絵図があるものですから、平面図上では何屋さんがあるなんていうことは分かるんですけど、立面的な絵図が残っていないものですから、そういったところでちょっと参考にとということで川崎市の例を挙げさせていただいたところです。

確かにそういうことであれば、旅籠ではなくて商売、酒屋さんなのか米屋なのか何かということはあるんですけども、それにしてもやっぱり小牧でじゃあどんなふうだったかというところがないので、どこか参考になるような錦絵とか絵図、例えると東海道五十三次みたいな、そんなところからとなると、やっぱりちょっと有名どころとか少し大きな規模のお店になってしまうのかなというところがあるんです。なので、あのときの雰囲気をとといいますと、参考にできる小牧ならではのところの資料がちょっとないものですから、そういったものを参考に作らせていただくんですけども、明らかにちょっとこれはおかしいよということがあれば、またどの辺かちょっと個別に相談していただいてと思っております。

なので、まず旅籠がちょっと一般的でないよということであれば、小牧宿の特徴、そういったところで商売系のお店に替えるということも今後検討していきたいと思っております。

【藤堂委員】 浅野さんが言ってくださったような感じで、検討してもらったほうがいいような気がしますね。

【小野会長】 お願いします。

【富嶋委員】 小学校3年生で昔を調べることになってくると、ここが題材になってくるんですけど、入り口が岸田家だし、それから屋根神様だし、それから銅鏡なんですよ。そういうものがこの中にちょっとちらちらと入ってくると、ビデオでもいいし、何か銅鏡の何かパネルがぽんと置いてあってもいいんですけど、入ってくると子供たちの学習が、実際のまちと「こまき」という副読本と、ここがつけられるなというふうに思いました。

【小野会長】 お願いします。

【事務局（浅野）】 おっしゃるとおりです、実は本当のところを言うと、屋根神様を展示しようという案もあったんですけども、ちょっと大きさですとかスペースの問題、また屋根神様自体が1か所寄贈いただいたものが、そういうものがあるんですけども、修復をしたりとかということがありまして、展示のほうは今、スペースの問題もありまして断念したところであります。

ただ、おっしゃられましたように銅鏡ですとか、もちろん屋根神様ですとかそういったもの、今小牧宿に残っているものというものを、先ほど申しましたトピックパネルですとか、そういったところでも紹介しながら、今の町並みも当時は宿場町だったよというところにつながるような展示をしていきたいというふうに考えております。以上です。

【小野会長】 ありがとうございます。

そのほか、いかがでしょうか。

【中嶋委員】 1つよろしいですか。

道幅を示すグラフィックですけど、すごく面白いとは思うんだけど、これだけの面積を使ってこれかというのは、床がちょっと違和感があるなと思って、例えば宿場の絵図だとか、そういうものを床に貼ったほうがいいんじゃないかなと僕はちょっと思ったんですね。宿場の絵図貼って、やって、今いるあなたたちがいるのはここですよと、そっちのほうが。ちょっと子供には分かりにくいかなと分かんんですけど。歴史を感じさせることはできるんじゃないかなというようなことをちょっと思いました。

それで、先ほどから出ているやつ、例えばきちんとした調査がされているのは岸田

家しかないの、あと市史のときに大分いろいろ調べてはいるんでね。だから、そう
いったものしかないの、例えば間取りなんかは、岸田家なら岸田家にして、あとは
空想で造るとか、そういうこともありかなというふうに思いますね。どっちみちこの
辺は必要ないかもね、想像ですからね。多少フィクションが入ってもいいんじゃない
かなと。ただ、造りとかそういうものだけはきちんとしていったほうがいいんじゃない
かなと僕は思いますけど。

【小野会長】 ありがとうございます。

【中嶋委員】 それともう一個いいですか。

前回の資料にあった大山廃寺の瓦がなくなっちゃったんですけど、すごくこれ好き
だったんですけど、どうしてこれ採用できない、やっぱりいろんな制約があるんだろ
うと思います。瓦屋根がなくなったのはどうしてですか。

【小野会長】 お願いします。

【事務局（鈴木）】 昨年度の基本計画では、おっしゃるとおり瓦屋根の模造で実大
再現というところを考えていたところではあるんですけども、実際に瓦と違う遺物
も見せたいというところの意見がありまして、立体模造で瓦屋根の復元をするとい
うところの前に、ちょっと実際の瓦を使って、関係の平瓦、丸瓦がどれだけあるかとい
うところがあるんですけども、それを組む形で若干見せつつ、瓦の実物で大きさを見
せるという方向にシフトしたところです。

【小野会長】 よろしいでしょうか。それともまだ。

【中嶋委員】 じゃあ、もうちょっと言ってもいいですか。

実物を見せるのはもちろんあったほうがいいんですよ。ただ、それがどうやって使
われていたのかというのは、多分展示ケースに入れたんでは分からないので、基本計
画のようにあんなに斜めにたくさんでなくてもいいから、ほんの少しの空間でもいい
から、軒平瓦があって軒丸瓦があって組んであるんだよというのがちょっとあるとね、
ああ、ここはこういうもんだったと。多分ケースに入った瓦を見ても使い方が想像で
きないと思うんですよ。何かであるといいなと思います。以上です。

【池田委員】 それは塔や、瓦。

【中嶋委員】 何でもいいんですけど、一番きれいな瓦は塔の瓦なんですよ。塔の瓦で1つ、1個作ればいいんですよ。1個型を作ってそれで作ってしまえばいいので。やるんなら塔やろうなと思う。

【池田委員】 塔は何重なんですか。それは分からない。

【中嶋委員】 何重というと。

【池田委員】 何重の瓦、塔だったかというと。

【中嶋委員】 それは分からない。

【池田委員】 でもこの大きさから今推測が結構できるので。

【中嶋委員】 それがですね、私建築の専門じゃないので分かりませんが、発掘をやった当時、建築の浅野清先生とか、そういう人に指導を受けた段階では、五重の塔にしてはちょっと小さいね、三重の塔にしてはちょっと大きいねと、まあ四重はないからどっちかだろうねという話で終わっちゃった。

【池田委員】 やっぱ、三重の塔か五重の塔。

【中嶋委員】 どっちか分からない。

【池田委員】 三重なら确实だということですよ。

【中嶋委員】 まあそうなのでしょうね。

【池田委員】 でも、いわゆる多重の塔は多重の塔だから、それが何かここからではちょっと見えない。

【中嶋委員】　そうですね。可能性はありますよね。でも、それはもう大き過ぎるから、ミニチュアか何かでやるしかないですね。

【池田委員】　それはもちろんそうですけど、そういうものが何かちょっと見えるといいなと思って、この大きさだったら大丈夫と。例えば、比較に何とかの五重の塔の基礎礎石の大きさはこのくらいでとか、そういうふうにしてみるとここがこのぐらいの塔だというのが分かる。

だから、今現存で建っているところの、例えば薬師寺の三重の塔でもいいし、それから法隆寺の五重の塔でもいいから、その礎石の大きさを。礎石の大きさを比較してというようなちょっと展示があるといいかなと思いますね。そうすると、これも結構規模が、大きい規模なものだったということが、調べればそれは。これじゃあ何か全然、ただありましたというだけで、なかなか分かりにくいと思うんですけど。ちょっと大変ですけど。でも、もう今そういうものがいっぱい出ているから、あちこちで。この点点点でもいいから、ここね、ちょっとあると。あるいは横のパネルでこれが薬師寺で、これこれだとあると。

【小野会長】　心柱の位置と、この四天柱の位置はもう分かっているんですよね。

【中嶋委員】　これは現存しています。

【小野会長】　分かっていますよね。今、池田先生がおっしゃったように、こういう大きさに一番近いもの、多分データが出ていると思うんですけど、それが例えば奈良のこれに一番近いとか、実はイメージし易いかもしれません。その規模のものがここにあったんだというのが、確かに分かりやすいかもしれませんね、自分の中でね。

【池田委員】　だから、ちょっとそういう例があったほうが、いかにここら辺がすごいところだったかということが実感されることはあると思います。

【小野会長】　多分、三重とか五重というのは多分分からないから、この実際に残っているこれに、じゃあ近い規模のものがあったよという情報が示せばいいかもしれないですね。

【事務局（鈴木）】　よろしいですか。

【小野会長】 お願いします。

【事務局（鈴木）】 今、中嶋先生、池田先生からいただいた意見に補足なんですけれども、瓦が実際にどうやって使用されていたか、その軒平瓦が来て、軒丸瓦が来て、本瓦葺の様子というところは、瓦の実物展示資料とセットでくるグラフィックパネルの解説の中で、そういったところをイラストで補いながら、どうやって使用していたかというところを補いつつ、実物でその1点がこちらだよという形で展示ケースの中で見せようということを考えておりました。

この塔跡の規模についてなんですけれども、この塔跡、床面グラフィックで再現するのは実際に現存しているところの平面的なものになってしまうんですけれども、導入映像展示の中で、例えばこの現存する塔跡の写真から何かCG的な、イラスト的なもので、その三重ないし五重の塔が立ち上がってくる様子だとか、それが山の麓から見てどう見えただろうかというところを、再現CGみたいなものを入れることでイメージの補完になればいいかなと考えております。

礎石の規模の比較についてはいいアイデアだと思いますので、検討したいと思います。よろしくお願いします。以上です。

【小野会長】 お願いいたします。

【富嶋委員】 瓦屋根があるといいんですよね、実際の瓦屋根の再現、復元みたいなものが。

【中嶋委員】 理想はそうですけど、スペースもあるし。

【富嶋委員】 いろいろ障害があるかもしれないけど。実物があって、全体の像があるということで復元したらこうなるんだけど、この中間があると物すごく分かりやすいんですよね。瓦はこうだ、全体像を復元したらこんなにすごい塔になるよ、実はこのすごい塔の一重のようなこの部分はこんな感じの大きさと、瓦がこんなふうに積み重なっているんだよみたいなものがあると、物すごく分かりやすくなるので。

【中嶋委員】 もう一ついいですか。

【小野会長】 お願いします。

【中嶋委員】 大山廃寺の塔跡を、グラフィックで礎石を復元していますけれども、上のほうにもう一列、何とかありませんか。全部は入らなくとも。

【事務局（鈴木）】 そうですね。資料1－2のほうでは、塔心礎周囲の4から6個の礎石を原寸イラストで表現しておりまして、実際に資料1－1の6ページから、塔心礎の周りが4つだけになってしまうところなんですけれども、今おっしゃられたとおり、この平面図でいう上側、そのほうにもう一列あると、その塔の心礎から半分といいますか、半径といいますか、北側の幅というところがしっかり見えるようになると思いますので、この心礎周り4つだけというよりは6つの、例えば上側に2つ付け足して6つという形のほうが、塔の大きさをイメージする上で適切だと思いますので、検討したいと思います。以上です。

【小野会長】 ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

【中嶋委員】 あともう一つよろしいですか。

あな窯の断面図、壁面展示なんですけど、ここって相当幅がありますよね、4メートル幾つあるかな、4.25だな。4.25というと普通あな窯広くて2メートルですね、幅。2つ入りますよね、時期を選べば、横に。例えば須恵器の窯とか灰釉の窯とか、そういうふうに2つ入れることも可能じゃないかというような、いかがでしょう。

【事務局（鈴木）】 現状ですね、A立面図にくるところで、補強していたあな窯の断面というところなんですけれども、断面の切り口として焚口側から見た断面ではなくて、上っていくところを横から切って、その煙道の上のほうはちょっとさすがに幅的に長く入らないので、横からの断面を、焚口があって燃焼室があってというような断面を再現するというイメージでおりました。以上です。

【小野会長】 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。

【越川委員】 この施設の名称についての検討は、これからということで大丈夫です

か。

【事務局（浅野）】 はい。今、仮称とついておりますので、正式に市の名称をこの後、今後つくりまして、また愛称のほうも募集する予定を現在しております。以上です。

【越川委員】 現状の名称では、民俗という言葉を使っていて、民俗担当の私が言うのも何ですけど、展示の中に民俗展示というものはないので、実際に検討されるときはこの民俗というのは、この現状でいくんだったら入れると違和感があるのではと思います。

【事務局（浅野）】 承知しました。ありがとうございます。

【小野会長】 ほかにいかがでしょうか。

【池田委員】 何回も言ってごめんなさいね。

全体を見ていくと中世があまりにもない、薄いんですけど、中世だと例えば誕生仏があるところ、正眼寺とか、いわゆる中世の禅寺がここのところにあるんだということちょっと出してもらいたいなと。だから、正眼寺が今も残っている、あれが中世ですよ。

【中嶋委員】 中世なんですけど、小牧へ来たのは。

【池田委員】 後ですね。小松寺は。

【中嶋委員】 小松寺は古いですよ。

【池田委員】 でも、あれももうちょっと古いね。でも、中世といえば中世、鎌倉以降ですので。だって小松天皇なんだから。だからああいうような寺がある、いわゆる禅宗寺院があるというところが一つの中世の意味があるから、それがあるといいなと思います。

それから、ついでに言っちゃえば、あそこの例の平安仏があるところ、賢林寺。賢林寺が平安仏を持っているじゃないですか、ああいうのがもう何か、何も平安とか鎌

倉にそういう文化的なものがないみたいな頃、あな窯とか大山廃寺はもちろんあったんですけども、そういうものもちょっと何かどこかにあるといいな。

【小野会長】 お願いいたします。

【事務局（浅野）】 今回、この基本的な展示としましては、基本構想・基本計画の中で、大きく4つのことが見どころといいますか、ということで、古墳時代、律令国家の時代、中世、近世ということで展示をさせていただいております。それで、その間になりますところについても、中世ですね。中の展示では、若干中世の集落遺物というところを展示しておりますが、ただお話にもありましたお寺ですとか、そういったお寺が持っている希少な文化財という紹介が今この中にはございませんけれども、例えばトピックスのコーナーで紹介する、あるいはこの外周のところが、先ほどの資料の十何ページにありますけど、外周が一応年表ということになっています。その中で御紹介する、あるいはその年表以外にも、こういった指定文化財の紹介ですとかということも今検討しておりますので、そういったところでの展示、紹介ということを検討しております。以上です。

【小野会長】 そうすると、今、池田先生がおっしゃったお寺のね、中世のところが抜けているんじゃないかということでしたけれども、外周のところで出てきて、仏像の絵なんかもそこに出てくるということなんですかね。

先生、いかがですか。外でいいですか。でも、まあ一応ぐるっと回ると出てくると思う。

【池田委員】 回ると出てくるんですけど、何て言ったらいいかな。ここに住んでいる人たちが、自分たち、中世のところは飛ばされちゃった、文化が飛ばされちゃったみたいなイメージを持ちちゃうと怖いと思うだけで、例えば小松寺は外にありますよとか、何かそういう案内でもいいと思うんですけども、この中世という時代には結構寺があったということをごどこかにこの中に記入しておいて、外へもっていくという形で、自分たちの住んでいるところは中世のちゃんと町並みというか文化を持っていた時代のところなんだよということが納得できてもらったほうがいいかなというふうに感じました。

【小野会長】 次の、今改めていろいろな博物館とか資料館を見直すと、中世という

ところに大体仏像があるという。大体お寺が出てきますよ、どこの博物館に行っても。だから、私なんか仏像好きだから、まず中世のところに行って、どういう信仰があったかなんて見るけど、確かに言われてみると、ここにあるのはかまどしか出てこないというところで、確かにちょっと違和感はなくはない、外で補われているということではあるんだけど。ただ、テーマを4つに絞っているという、そう言われてしまうと何とも言えなくなってしまうんですけど。確かに、ちょっと悩ましいところですけども。

お願いします。

【富嶋委員】 中学校の社会科副読本を作るときに、通史がどうしてもできないものですから、いわゆるトピックにするんですよね。そのトピックがこれすごく一致していて、古墳を持ってきて、大山廃寺を持ってきて、古窯跡を持ってきて、次はもう小牧山なんですね。

だから、中世はどうしても空いちゃうというところがあって、そこは古代・中世のところで、古代で味岡の庄を入れて、小松寺を入れて。だから、中世は本当になかなか大変で、中学校の社会科の副読本なんでお寺を入れられないので、あんまり人物、仏像というところが入れないのでということでもう悩んで、中世の城館跡とか砦跡とか。それこそ戦国期までもうやって、戦国期の砦跡、城跡みたいなことをやるぐらいのところで、どうしても隙間はそこにはないというのは実際に感じる場所ですが、この展示そのものが中学校の社会の副読本にすごく合っているんで、これからの使い勝手はいいなという、すごく思いました。

【小野会長】 なるほど。中学校の学習で来たときには、習ったことがここでさらに学べる。

【富嶋委員】 ここで見てこいと宿題も出せますから、中学校だと。「こまくる」でやってきて見ろと言え、ということもできますので、そういう意味では使いやすいかなというふうには思っています。

【小野会長】 分かりました。

【池田委員】 小牧の文化財も中世のものだもんね、みんな。絵画も彫刻もでしょう。

【小野会長】 残念だけれど、あれこれ入れるとわちゃわちゃするのは確かなんですけど。

【池田委員】 外にありますという案内でいいから、例えばいわゆるそういう宗教的なものはちょっと外してあるとかみたいな感じだったら、中世は寺があって、寺に関しては外に書いてありますみたいな形でもいいかな。全然中世だけすっ飛ばされて、この文化がないもんだと。

【小野会長】 それか、どこかで何か説明の映像でも、何かのときに一応それを補う形で、中世にはこういう側面もあったよというのをちょっと映像で、窯の説明だけじゃなくて、何かちょっと切り換わって、その次には宗教の話が来るとか、何か少し補われても。こういうお寺があって、こういう仏像が指定になっているというのがちょっと出てくるのがあってもいいかもしれませんね。

【池田委員】 指定されるものがほとんど中世ですもんね。それであんなに取ってるからちょっと残念だと。

【小野会長】 今、国の重文だもんね、賢林寺。

【池田委員】 そうそう、賢林寺はもう平安だから。律令国家になるのがちょっと。

【小野会長】 小松寺なんかは、鎌倉の仏像と南北朝になっているから中世になるんですよね。

【池田委員】 そうそうそう、鎌倉の絵画もあるし、あそこは。あとは、福厳寺、あれも中世終わりぐらいの像でしょう、あの人。だから、そういうものが、それからもうここまで行っちゃったからもうないんだけど、福厳寺のところに城があったわけでしょう、たくさんの城が。そういうものはもう全部外側についているんですよね、城に関しては。

【事務局（浅野）】 小牧山ですとかそういったものについては、歴史館、れきしるのほうへという紹介を一応させていただくんですけれども、現状、れきしる、歴史館のほうにそれ以外のお城についての紹介というのはそれほどないものですから、今申

しました外周パネルのところで、この通史的なもの以外にも市の指定文化財ですとか、それになっていないもの、あるいはお城というものも紹介するようなコーナーといたしますか、場所というふうに考えておりますので、そこでその中で補えるものというものは紹介していきたいというふうに思っております。以上です。

【小野会長】 そのほかはいかがでしょうか。

言いたいことがあったらこの場で言っていただいて。もう間もなく実施設計に入ることになるので言えなくなってしまうので、この場で。言い損なったということがないようにお願いします。

【池田委員】 民俗資料館だから民俗資料は何があるんですか。

【藤堂委員】 一応、民具はいっぱいある。今言われた民俗資料館にするんだったら、近世の商家の道具なんかは、江戸時代に使っていた道具なんかはいっぱい、いっぱいあるから市にね。どこかにそりゃあ展示できたらいいんだけど、場所がないんじゃない。

【越川委員】 民俗という名前が出てくると、イメージするのはやっぱり農村とかというものです。あとは漁村とか漁具とか農具とかそういうものになってきて、あとは近年だと昭和時代のちょっとレトロ系のものです。そういうものになってくるので、この展示施設の中でこれから割り込むというのはなかなか難しく感じる気がします。それに、ちょっと見せていただいた限りだと、まだ収集資料を収集して、データを整理している状態です。そうすると、これからというのはなかなか難しいのかなというふうにはちょっと思っていました。

【小野会長】 どうぞ。

【中嶋委員】 体験コーナーがいろいろあるんですけど、実際どんなものを入れるのか。例えば陶器だと実際触ってみるといいのかなと思うんですけど、例えば緑釉陶器なんかはまさか触らせるわけにはいかないだろうし、そうするとどんな感じでやるのかなとちょっとまだ自分の中でイメージがちょっとつかめない。手で触るので、何か手を突っ込んで触るんです。でも持っていけないと確認しないといけないんですよ。どこかにあったような気もするけど、こういうものをやるということは、もう

誰か人が必ずいるということですよね。そういう職員の方が必ずいるという前提だと思うんですけど、その辺は大丈夫なんですか。

【小野会長】 いかがでしょうか。

【事務局（武市）】 この図面にも配置してありますように、人を配置して、催していくということで検討しておりますので、何とかそこは死守していきたいと思っております。

【小野会長】 大体言いたいことはもうよろしいでしょうか。

大きな枠組みとかコンセプトとか、こういうところがもう今回大枠が変わるってことはあまりなかったかと思しますので、今の細かい御意見をちょっと反映する形で進めていただければと思います。大枠に関わることを本当に早く出しておかないと、もう次困ってしまうということですので、一応今もうこれで、この辺で締めてもよろしいでしょうか。

【池田委員】 ちょっといい。

【小野会長】 どうぞ。

【池田委員】 トピックコーナーに誕生仏だけしかおらんけど、これはほとんどの、例えば小牧市のいわゆる文化財か何か出るということで、誕生仏だけは出すけど、ほかの仏像、小松寺でもいいし、ああいうのは出てこないということですか。

【小野会長】 お願いします。

【事務局（鈴木）】 トピックコーナーに誕生仏としてあるのは、誕生仏のレプリカがありますので、そのレプリカの実物展示をするというのがまずそのときには誕生仏とするところで、実際にトピックコーナーの解説パネルのところでは、誕生仏に限らず指定の文化財となっている仏像というところは紹介をしていきたいと思っているところになります。以上です。

【小野会長】 仏像の実物が来ると言うと、結構仏像ファンが来るんですよ。後ろも

見れます、全部、後ろも見れるとかと言うと来るんですよ、結構な人が小牧に足を運んでもらえるというのがあって、だから年に1回でも、そんなに大きくなくても見れますよと、指定文化財。そうすると、この小牧にいろんな仏像ファンが来るという感じで呼べるので、そういう企画もあるといいかなと、そういうスペースがあるといいなと思いました。

【池田委員】 そういう話です。だから、せっかくあるんだったら、それが1週間とか本当に3日ぐらいでもいいと思うのね。本当は1週間欲しいね。

【小野会長】 本当だったら2週間とか、もし季節がいい時期でいいので、そしたらそのときを狙って行ってあそこへ寄っていかうと思うんですけど。

【池田委員】 あとね、仏像ではないんだけど、例えば大久佐八幡宮とか、結構神社が持っている歌仙絵ってあるでしょう。つまり、何で歌仙絵があるかというところ、そこで連歌を詠んでいたんですよ。モノの文化はたくさんあるんですけど、そういうコトの文化が結構切れているので、そういうことが行われていたよというようなものがあるとちょっといいかなと思って。それから、さっきのお城でもそうだし、本当にお寺さんもそうですし、そういうコトの文化を少し入れていただけると、このトピックのコーナーのところでそういうのも選択肢の中にあるといいなと思います。

【小野会長】 そういう絵を一つ展示して、そういう文化があったよとプチ企画でみたいなね、本当に小さい、みたいなものがあるとちょっと、年に1回でもね、この季節だけとかとあるだけでもちょっといいかなと、物を通してそういう歴史があったよというのを学ぶとか。

【藤堂委員】 特別展示という期間がどこの博物館でもやっていますけど、そういうものが企画してできるといいですよ。

【小野会長】 少しでもね、ここの空間だけとか。でもこれだけもうはまっちゃっているから、やるといってもケース1個の話なんですよ、これを見ていると。ケース1個でも、見せ方だよ。だから、壁にはまっちゃっていると、これってぐるっと回れるんですか、ケースの周り、どうですか。実物を例えば見せるといったときの。

今、やっぱり後ろまで見せないと来ないんですよ。東京国立博物館も奈良もそうだ

し、みんな国立系が変わってきているから、そういうのじゃないとなかなか。

この前、岐阜の各務原で、各務原の薬師寺の仏像が指定文化財になって、それで図書館の一角かな、ちょっと1月ほど展示しようといっって、そうするときガラスケースには入っているけど、表からも後ろからも、実物大のパネルとか修理前とかと出すだけで、やっぱり結構呼べるんですよ。ちょっとそういう工夫、ちょっとした区画でいいので、ちょっとうまく見せれば人を呼べるかなというふうに思います。

お願いします。

【事務局（鈴木）】 誕生仏の展示ケースについてなんですけれども、現在の平面図上では、一応背中側が木格子側にくっついてしまっている形ではあるんですけど、こちら可動式の独立のケースを想定しておりまして、御意見をいただいたというところで、背中側を空けるということも検討していきたいと思いますし、また特別展ということで、例えば誕生仏のレプリカを一旦常設という形では置こうと思っているんですけども、例えば特別展によっては、この独立ケースをトピックコーナーの前のほうに動かして、例えば大山焼だったら大山焼の実物を展示するだとか、ほかに実物で展示すべきものがあれば、トピックコーナーのパネルと合わせて展示替えということもできたらいいなということを考えておりました。以上になります。

【小野会長】 誕生仏を想定しているというのは、あんまり大きなケースじゃないわけですよ。そうすると仏像といっても、例えば小松寺の南北朝の、このぐらいだけどね、このぐらいだけど入ればね、すごくいいと思うけれど、それも入らないと言ったんなら、結局仏像の展示は無理ということになっちゃいますよね。

お願いします。

【事務局（浅野）】 ここの（仮称）歴史民俗資料展示施設につきましては、平面図を見ていただいたとおり、いかにもきちきちなところです。この中でも小牧の長い歴史の中で4つのテーマに絞って、ここを中心的にやっておりまして、それ以外のところに、中に収まり切らないものについては外周のところを使って紹介するというふうに考えております。

確かにもう少し広いスペースとか、それなりの設備があれば、企画展、特別展ということもこの中でできるんですけども、なかなかかなりはまったような展示になっていますので難しいという中で、基本構想・基本計画の中でもお示ししましたが、ここはたまたまラピオという建物で、例えばですけども、学習室ですとか普通に部屋

がありますので、そういった部屋をお借りして、期間限定で展示をするということはあるかなというふうに考えています。

ただ、それにしても、そういった部屋におきましては、経費の問題ですとか物によっては本数の問題というところがクリアできておりませんので、なかなかお寺の仏像をお借りして展示するというようなものについては、なかなか難しいかなとは思っております。ただ、鍵はかえるという程度の防犯となってきますので、なかなかそういったものも難しいんですけれども、企画展なり、そういう特別展というものはちょっとなかなか運用当初は難しいかもしれませんが、今後やっていきたいというふうな計画はあります。

また、いろいろ越川先生からお話があった民具に関しましても、例えば今でも文教大学さんのほうにお願いさせていただいて、例えば今年度だと図書館のほうで「こまきの養蚕」ということで提供していただいたりとかということもお願いしておりますので、例えばそういうラピオ内展示室を使って民具の展示、それはもう期間的にはありますけれども、そういったものも今後やっていただきたいなというふうには思っております。以上です。

【小野会長】 ありがとうございます。

それでは、この辺でよろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

それでは、次に進んでまいります。

次第のその他ですね。次第の4. その他に移ります。

次第の4. その他、事務局から何かございますか。

【事務局（浅野）】 事務局のほうから1点御報告と1点御連絡をお願いいたします。

まず報告ですけれども、小牧山の南側、青年の家の奥にあります創垂館についてですけれども、今日こういったパンフレットお配りさせていただきましたが、令和2年、3年度に保存修理工事を行いました。これにつきまして、今現在、国の登録有形文化財（建造物）の申請を10月に行いました。予定どおり進みましたら、3月に国の審議会による答申がありまして、来年の7月頃に登録をされる予定でございます。それが報告1点でございます。

続きまして連絡事項ですけれども、今年度の市内文化財現地調査を開催したいと思っておりますので、候補の場所、視察先ですとか日程の調整のほうをさせていただきたいと思っておりますので、会議終了後もこの場に残っていただきたいというふうに思っております。

います。以上です。

【小野会長】 ありがとうございました。

委員の先生方から何か報告、連絡などはありませんか。

よろしいでしょうか。

(挙手する者なし)

それでは、本日の議題の審議が終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局（武市）】 小野会長、委員の皆様、慎重な御審議どうもありがとうございました。以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和6年度第1回小牧市文化財保護審議会を閉会いたします。ありがとうございました。